

教 育 目 標

(1) 本校の教育目標

校風と伝統を継承し、校訓「最後までやり抜く」を基盤に、知・徳・体の調和のとれた活力ある児童の育成を目指す。

- － 考 え る 子 － 個性を生かし、自ら学ぶ子
- － やさしい子 － 思いやりの心もち、互いに磨き合う子
- － 強 い 子 － 命を尊び、心と体を鍛える子

(2) 経営方針

学校は授業や行事等の教育活動を通して、一人一人の生きる力を育むところであるという理念の下、教育活動の工夫、教育環境の充実を図り、自己確立及び人間形成を促す。

(3) 教育活動の重点

<自ら学ぶ力を育むために>

○基礎学力の定着

- ・学習内容を精選、明確化することで、確実な指導を実現する。
- ・一人一人の「考え・学ぶ機会」を充実させるために、指導の効率化を図る。
- ・自らの学びを振り返ることで、学習内容の定着を図る。

○学びの意識化

- ・子供の学ぶ意思を尊重し、学習への責任をもたせる。
- ・自分自身の向上に目を向けた振り返りにより、学びの実感をもたせる。
- ・一人一人が目的を明確に把握し、学習の見通しをもたせる。
- ・既習内容の活用（応用・思考）を図り、学ぶことの価値を意識させる。
- ・学びの過程を振り返り、自分の学び方を価値づけさせる。

<自他を尊ぶ心を育むために>

○他者意識の涵養

- ・他者の意見に耳を傾けることの価値を認識させる。（話し合い活動）
- ・多様な見方・考え方に触れ、認め合うことの価値を感じさせる。（授業、学級活動等）
- ・自分の思いや考えを伝え、相互理解を深めようとする態度を育てる。（授業、学級活動等）
- ・目的を同じくする仲間の存在意義を認識させる。（学級活動、部活動、学校行事）
- ・ルールに則り、互いに尊重し合うことの大切さを考えさせる。

○自己肯定感の高揚

- ・集団の中の自分の役割を明確にし、自己有用感を高める。
- ・目的をとらえ、自らの活動を考えることで当事者意識を持たせる。

○社会に対する意識の育成

- ・地域社会とのつながりを意識させ、社会の一員であることを自覚させる。（社会体験学習、挨拶運動、ボランティア活動等）
- ・社会の多様性に触れ、互いに認め合う心を育む。（社会体験学習、外部講師招聘等）

<健やかな心と体を育むために>

- ・仲間とともに取り組む経験を通して、共働の価値を認識させる。
- ・保健指導、健康教育を通して、心身の状況に関心を持ち、自分で管理する意識を高める。
- ・安全指導を通して、「自分の身は自分で守る」意識と術を向上させる。
- ・道徳教育や読書活動、芸術鑑賞を通して、豊かな心の醸成を図る。

<教育機能を十分に生かすために>

- ・ P D C Aによる評価に基づき、教育活動運営の最適化を図る。
- ・ 手段の目的化を排除し、教育活動の精選・スリム化を図る。
- ・ 課題への組織対応を基本とし、個の負担軽減とスキルアップを目指す。